



北米ホーリネス教団
オレンジ郡
キリスト教会
「週報」

2012年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 1日2章の聖書日課に励む
3. 日ごとの写教に励む
4. 定期の祈り会に参加
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am
 コヒーアワ : 日曜日 10:45~11:15am
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm
 みふみ会 : 水曜日 10am
 定例祈禱会 : 水曜日 7:30pm
 早天祈禱会 : 土曜日 7am
 家庭集会 : 各地区に2箇所
 牧 師 : 杉村 幸 (日本語部)
 益田デーロ (英語部)
 電 話 : (714) 827-6244 (教会)
 (714) 527-1456 (牧師館)
 E-Mail : sugimura1950@gmail.com
 教会ホームページ : www.occc.org
 教会所在地 : 4872 Bishop St.
 Cypress, CA 90630

石 叫 口

◎石叫■

「洪水との闘い」

六月十九日付けの『ラフ新報』の記事だ。タイの首都バンコクから少し北にタイ有数の工業団地がある。そこは昨秋の記録的な大洪水で壊滅的な打撃を受けた。なかでもホンダは工場が水没し、水深2メートルにもなった。早期の復旧は絶望的と見られていた。百五十社近い日系企業の集まる中で、工場というメーカーの生命線が水没したのはホンダだけだったが、今年3月末、操業を再開した。タイの人から「どんな魔法を使ったのか」と称賛する声が上がった。

大型のプレス機械が、車を次々と押しつぶしていった。昨年暮れのことだ。ホンダは洪水で水に浸かった新車一〇五五台すべてを公開のもとでスクラップにした。「ホンダは水没した車を洗浄して売るのはないか」という中傷にさらされ、それを払拭するためだった。こしらえた「製品」をつぶさなければならぬという皮肉、しかし、この苦渋の決断が復旧への号砲になった。というのも、ホンダは早い時期から「再生」の道を検討していた。浸水を免れたパソコンや高圧洗浄機などの備品を、運び出せる段階で次々とポートで搬出した。また六五〇〇人の社員全員に「洪水を理由に解雇しない」と伝え、工場が休業中も賃金を払った。一億バーツ(二億六千万円)を見舞金としてタイ赤十字に寄付した。本部長は「洪水の被害者はホンダのバイクや車を買っていたあなたのお客様。日本人だけ安全な所へ避難すれば済む話ではない。非常時こそ何ができるかを考えた判断です」と言った。ホンダのタイ進出は一九六四年、現地では長い歴史を持つ。そのプライドもあったのだろう。そして工場再開への動きを加速させたのが前述のスクラップである。それはホンダ自らが早期再開の腹をくくるための決意の場となった。本部長は続けて言った。「東日本大震災があったからといって、日本の企業は東北から逃げることはできません。まずは復旧、復興です。タイでも同じことです」。これまで日本の企業は貿易摩擦、円高など、さまざまな試練に直面してきた。もし、日本の企業に「強さ」があるとすれば、ここで見たような団結力と危機を克服しようとする「意思」ではなかるうか。

聖書に「神よ、あなたは砕けた悔いた心をかろしめられませぬ」(詩篇五十一・17)とある。謙遜な心こそ、神と人に喜ばれる生き方だというのが、非常時にこそ、何ができるかというホンダの姿勢に彼らの心意気とタイ人の言う魔法の秘訣を見た。でもそれは普段、どのような「意志」で日々を過ごしているかに集約される。それは地元仕えるという謙遜な生き方から来ているようだ。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」

オレンジ郡キリスト教会は一九七七年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は一九二一年に創立され、現在は日英両語合わせますと二千名を越える会員になります。

私たちの教会は一八世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、三世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白といたします。

